

校長のひとりごと6

「心に移りゆくよしなし事をそこはかたなく書き作れば…」

校長の内田です。関東地方も先週の金曜日（6月7日）に梅雨に入りましたね。平年より1日早い梅雨入り、昨年よりは1日遅いそうですが、ほぼ例年並みというところでしょうか。この時期は「梅雨寒」とか言って、急に寒くなることもあるので、風邪をひかないように注意が必要です。この雨と体育祭ロースで全体的にどんよりムードが漂っている感じがします。何かスカッとすることが起きないですかね。

今週末はパシフィコ横浜で全公立展が開催されます。中学生や保護者を合わせて3万人以上の来場者があります。その場で橋本高校のよさをアピールしてきます。

かちかん 価値観

「僕らは奇跡で生きている」

このタイトル。なんのこっちゃ??で思ったことでしょうか。高橋一生、榮倉奈々、要潤、小林薫、児島一哉（アンジャッシュ）等が出演していたドラマのタイトルです。2018年に放映されたドラマです。シーズン1は第10話まであるのですが、引き込まれて一気見してしまいました。

ストーリーは、「主人公は、大学で動物行動学を教える講師として働く。大学時代の恩師からの誘いで半年前に赴任したものの、大好きな動物や生き物に関して没頭してしまう性質や時間を守れない性格のために事務方からはたびたび注意を受けている。それは講義においても例外ではなく、学生に与えた課題について発表させるものの、その課題に対する正解について曖昧な言動に終始し周囲を惑わせる。しかし、その一方で常識や固定観念に囚われない主人公に接することで、周りの人間は自分たちの価値観の意味を問い直すことになる。」と、大方こんな感じですか。

この主人公は発達障害です。ちなみに発達障害とは、自閉症スペクトラム、ADHD（注意欠如多動性障害）、LD（学習障害）の総称で、発達障害の多くは知的障害を伴わず、コミュニケーション能力や行動面、学習の力などある特定の領域に困難が生じるものです。知的障害とは違います。ちなみにエジソンやモーツァルト、アンデルセンも発達障害

い
と言われています。ちょっと難^{むずか}しい話^{はなし}になりました。またの機^き会^{かい}にそれぞれの言^{こと}ば^ばを説^{せつ}明^{めい}します。

はなし もど
話を戻^{もど}します。ドラマの中^{なか}で気^きになるところがいくつか…

ひとつ目は、ドラマ中^{ちゆう}の子^こどもが、「イソップ童^{どう}話^わのカメは寝^ねているウサギに声^{こえ}をかけなかったのはなぜか。倒^{たお}れているかもしれないってなぜ思^{おも}わなかったのか。」と問^といかけ^かける場^ば面^{めん}です。主^{しゅ}人^{じん}公^{こう}は答^{こた}えを出^だそうと考^{かんが}えます。



かんが
まずはそんなことを考^{かんが}えたこともありません。聞^きかれれば、「やっぱり勝^{しょう}負^ぶに勝^かちたかったから」と、答^{こた}えるのがたぶん一^{いっ}般^{ぱん}的^{てき}でしょうか？（この一^{いっ}般^{ぱん}的^{てき}は私^{わたし}が思^{おも}っている一^{いっ}般^{ぱん}的^{てき}です。）数^{すう}日^{じつ}後^ご、主^{しゅ}人^{じん}公^{こう}はこ^こう答^{こた}えています。「カメはうさぎを意^い識^ししてなんかなかった。低^{ひく}い視^し線^{せん}の中^{なか}で、目^めの前^{まえ}をだ^みけ見^みながら、ゆ^{たの}っくりと、楽^あしみながら歩^あいでいただけかもしれない。」と。うさぎは視^し線^{せん}に入^{はい}らなかつたということでしょうか？ カメの気^き持^もちは正^{しょう}直^{じき}わかりませんが、もしかしたらそ^{かんが}う考^{かんが}えていたのかもしれません。本^{ほん}当^{とう}の気^き持^もちは本^{ほん}人^{にん}でなければわからな^いということでしょう。

ふた め
二つ目は、「凄^{すご}いところを100個^こ挙^あげる」ということ。

き
ちょっと聞^きいただけでは??ですよね。ドラマの中^{なか}で主^{しゅ}人^{じん}公^{こう}が、相^あ手^てに對^{たい}して指^ゆ折^びり数^{かず}えながら言^いいます。「あなた^{あなた}のすごいところを100個^こ言^いえます。一つ目^{ひとつめ}は飯^{はん}をつくこと、ふたつ目^{ふたつめ}は朝^あ自分^{まへ}で起^きまること、みつ目^{みつめ}は…」、相^あ手^てはこ^こう答^{こた}えます。「当^あたり前^{まえ}のこ^ことで全^{ぜん}然^{ぜん}すごくな^なてない。」と。主^{しゅ}人^{じん}公^{こう}はそれ^{それ}に對^{たい}し、こ^こう続^{つづ}けます。「当^あたり前^{まえ}にできることはすごいことです。」

ふつう
普通^{ふつう}じゃん！って思^{おも}うこともち^ちよ^よと視^{してん}点^かを変^かえれば、やっぱりすごいことな^なんだと思^{おも}います。当^あたり前^{まえ}は誰^{だれ}にでもできるわけでもないですし。

みつ め
三つ目は、国^{こく}語^ごの教^{きょう}科^か書^{しょ}を見^みると頭^{あたま}が痛^{いた}くな^なってしま^まう少^{しょう}年^{ねん}の^{はなし}話^わ。

しょうねん
その少^{しょう}年^{ねん}は、国^{こく}語^ごのテス^{てん}トで100点^{てん}満^{まん}点^{てん}で10点^としか取^とれません。当^{とう}然^{ぜん}、母^は親^{おや}は本^{ほん}人^{にん}の^どりよ^くふ^{そく}そ^くのせいだとい^いい、ち^ちゃ^んと勉^{べん}強^{きやう}するよ^ように叱^{しか}ります。途^と中^{ちゆう}省^{しやう}略^{りやく}しますが、ある^ある^あること^{こと}から病^{びやう}院^{いん}で診^{しん}察^{さつ}を受^うけると「視^{しか}覚^{かく}過^か敏^{びん}」だ^だと…専^{せん}用^{よう}のサ^さングラ^らス^すのよ^ような眼^め鏡^{がね}をつ^{つく}り、本^{ほん}を^よ読^よむと頭^{あたま}の痛^{いた}さはな^なくな^なっていま^います。視^{しか}覚^{かく}過^か敏^{びん}とは明^{あか}るさ^{いろ}や色^{たい}に對^{たい}する過^か敏^{びん}です。普通^{ふつう}の^{ひかり}光^{あか}でも明^{あか}る過^すぎると感^{かん}じて目^めが^めち^ちか^ちか^かする。コ^こントラ^らスト^すの強^{つよ}い色^{いろ}使^{つか}いは疲^{つか}れるな^などです。努^どりよ^くふ^{そく}そ^くとい^いう母^は親^{おや}の思^しい込^こみ…母^は親^{おや}は子^こどもに^{しや}ざ^ざい^いし^します。早^{はや}くわ^わか^かつてあ^あげられ^れたらその少^{しょう}年^{ねん}はど^どんなに^らく^らだ^だった^たでし^しょう。

ははおや
こんなシー^しーンもあ^ありま^ました。母^は親^{おや}が主^{しゅ}人^{じん}公^{こう}に^{かた}語^ごった^たこと。

「個性を欠点だと思っていました。欠点を治そうとしました。自分の思い通りの子育てができなくてダメな母親だと思いました。周りからもダメな母親だと思われていると思ってました。だから、余計にみんなと同じことができるように必死になりました。必死になればなるほど、(主人公を)苦しめていると気づけませんでした。」

知的障害も発達障害も育て方の問題でもなく、父親・母親のせいでもありません。遺伝でもありません。個性は欠点ではありあません。単なる特徴です。

まだまだ気にかかった部分はありますが、今回はこのくらいにしておきます。

このドラマでは「普通」、「常識」、「当たり前」に縛られてはいませんか？って語りかけられているような気がしました。

私たちもつい「当たり前」とか、「普通」とか口にしますが、いったい誰がそれらを決めたんでしょう。

日本人からアメリカの人たちを見れば、外国人です。でもアメリカの人たちから日本人を見れば、私たちは外国人です。見方によって物事は変わっていきます。普通が普通だとは限らないということです。

真面目そうなドラマですが、ところどころに笑いがあります。高橋一生は演技がうまいですね。はまっています。しかし、最後の場面はあまりにも飛躍しすぎて…(驚)それは見てのお楽しみです。機会があったら是非見てください。そして、いろいろ考えてくれると嬉しいです。